

前回議論の論点整理について

- 1 前回検討会 令和3年7月1日（木） 13：30～15：30
- 2 場所 長野労働会館 5階大会議室
- 3 出席者 検討会構成員 10人

長野県 林務部 信州の木活用課

前回議論の論点整理

課題	検討会意見（論点）	対応方向（案）
<p>労働災害発生率の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他産業に比べて発生率は約10倍 ベテランや働き盛りでも多くの災害が発生 指導人材の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害は慣れてきた人、ベテランの人が危険な作業をして災害にあっている。繰り返し災害防止に取り組むことで危険を排除していく努力が必要 労働安全を一番に掲げ、班長を責任者として、全ての就業者が講習や会議に出るなど工夫をしている。 労災保険料が大きな経営負担となっており、これが減らせれば別のことにお金を回せる可能性が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての職責を対象にした講習会の実施や訓練機器やVRを活用した新たな研修体制を構築するとともに、指導者として民間の技術力を活用する方向で検討 労災の発生率が経営の大きな負担になっている状況と、業界全体で労災防止に向けた取組を推進する方向で検討

前回議論の論点整理

課題	検討会意見（論点）	対応方向（案）
<p>他産業に比べて所得が低位</p> <ul style="list-style-type: none"> 他産業に比べ約90万円低い年間所得 通年で事業量が安定しない 全国と比較して低位に留まっている林業活動 	<ul style="list-style-type: none"> 生産性の向上により利益率を上げて、それを就業者に還元していくという取組が必要 募集時の賃金は良いが、入社後に他業種に比べて上昇しないということに不安を持っている人が多いのではないか。 （スマート林業等の）新たな技術を導入した時、それを使える人材を計画的に育成する、あるいは現場の段取りを変えることが必要 経営者の理念、就業条件の整備など、他の産業とも比べて選ばれるような会社であることが必要 就業条件を整えるには、会社として組織的に対応することが重要 せっかく就業した人を定年近くまで定着させていく工夫をしていくことが重要 森林経営計画の樹立や事業地の確保を担う内勤職員が不足している。現場のことにも精通し、的確に指示を出せる内勤の職員の確保と育成を図っていくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲と能力のある林業経営者を中心に、機械化やスマート林業の導入等で生産性を高め、所得の向上を図る方向で検討 機械化やスマート林業の導入等により、林業の様々な段階において、人の関与をできるだけ少なくして林業のやり方を変える「林業DX」を推進するとともに、それを担う人材育成を実施する方向で検討 就業者が安心して働ける環境整備に向け、雇用管理の明確化や就業環境の改善、経営基盤の強化・経営力の向上に取り組む方向で検討 就業者の技術研鑽の機会を設けることで、収益性の向上や多くの役割を担うことによる働き甲斐の創出を図る方向で検討 安定的な事業量の確保のため、集約化や労働力の流動化を進めるとともに、内勤職員の（プランナー等）の育成に取り組む方向で検討 現場にも精通し企画や経営部門を担うなど、これからの林業界に求められる人材を林業大学校で育成する方向で検討 全ての職責を対象にした講習会の実施や訓練機器やVRを活用した新たな研修体制を構築するとともに、指導者として民間の技術力を活用する方向で検討 労災の発生率が経営の大きな負担になっている状況と、業界全体で労災防止に向けた取組を推進する方向で検討

前回議論の論点整理

課題	検討会意見（論点）	対応方向（案）
<p>新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 不安定な就業形態 林業への関心の低さ 多様な働き方や地方回帰の進展 	<ul style="list-style-type: none"> （再掲）経営者の理念、就業条件の整備など、他の産業とも比べて選ばれるような会社であることが必要 SNSや動画をはじめ、様々な機会を捉えて林業の情報発信を行い、認知度とイメージの向上を図ってはどうか。 アウトドアブームもあり、森林空間を利用して森林や林業に興味を持つ人を増やしたい。 子どもたちに森林や木との触れ合の機会を提供し、未来の従事者となるために関心を持ってもらいたい。 就業初期段階で資格や知識・技能を習得してもやめてしまう人もいる。 林業への就業はほとんどが男性であることから、女性の就業も推進する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全、所得の向上といった就業環境の改善により魅力ある林業に向けて取り組む方向で検討 より多くの機会を捉えて、林業の魅力の周知や就職説明会を進めていく方向で検討 森林・林業の関心を高め、理解者の裾野を広げることで、ゆくゆくは林業就業者の確保にも寄与する取組を推進する方向で検討 「緑の雇用」新規就業者育成推進事業を中心とした新規就業者対策に取り組むとともに、キャリアアップ等の体系的な人材育成を実施する方向で検討 女性が働きやすい環境整備に取り組むとともに、一時的な就業など多様な働き方を受け入れる仕組みも検討する方向で検討

前回議論の論点整理

課題	検討会意見（論点）	対応方向（案）
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 森林環境譲与税について、市町村との連携を含め、効果的な担い手対策を実施してはどうか。 ICTの活用など新たな補助施策を検討していただきたい。 林業労働力確保支援センター（林業労働財団）が実施する高性能林業機械のレンタル事業について、稼働率が下がっている。事業者の保有台数の高まり等によって役割が変わりつつある。 （再掲）アウトドアブームもあり、森林空間を利用して森林や林業に興味を持つ人を増やしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林環境譲与税、森林整備基金を活用した事業の基本的な考え方を整理したうえで、市町村と連携して効果的な担い手対策を実施する方向で検討 林業事業者等の意向を踏まえ、支援施策の基本的な方向性について記載する方向で検討 現在行っている「事業用」と「普及用」のうち、「事業用」については、事業者の保有台数の増加や民間リースの充実等を踏まえ、段階的に終了することとし、「普及用」のレンタル事業に一本化する方向で検討 山村地域の交流人口を増やすことにより、林業就業者の副収入の機会の増加や移住促進を図る方向で検討